

テーマ	課題と関連する地元説明会及び地元代表協議会委員から提出された主な意見や要望	教育委員会の考え方、対応		
		「千葉市学校適正配置実施方針」に明記した考え方や対応 対応する部分を抜粋	その他	
1 真砂地区の話し合いの枠組み	<p>現在、真砂第五小、高洲第二中の学区である真砂1丁目も真砂地区に入れることも検討できるのか。</p> <p>真砂1丁目の件については、どうするのかをある程度決めてからでないと意見の集約はできないだろう。</p> <p>学校適正配置は、子どもたちの将来に向けて話し合うことが大切である。協議が進んだ後に真砂1丁目を入れるとなると検討しなおさなければならない事態もありえるので、早めに協議に入れたほうがよいだろう。</p> <p>真砂第五小の問題については、稲毛海岸・高洲地区の議論がどの方向に進むのかわかってからでよいと思う。その後、真砂地区がどうバックアップするかどうかである。</p>		<p>地域からの要望により、話し合いの枠組みを変更することについては、関係する地域の代表の方と協議していきます。</p>	
2 学校適正配置の必要性	<p>適正配置の趣旨</p> <p>適正が適正でないかは、数よりも子どもの成長の観点や地域の発展の観点での説明が必要だろう。子どもや地域の立場に立って考えてほしい。</p> <p>適正配置事業により、いじめ、不登校、学力低下などの課題を解決できるのか。小規模校、適正規模校とも、それぞれのよさがある。メリットばかり並べてデメリットの説明がない。</p> <p>子どもたちの人数が少ないのは不安である。</p> <p>教育の質の充実をどのように図るのか。</p> <p>適正とはどのような観点で決めているのか。適正にするメリットは何か。</p>	<p>【実施方針策定の趣旨】 子どもたちのよりよい教育環境の整備と教育の質の充実を目的とした学校適正配置を推進するため、実施方針を策定する。</p>	<p>「学校規模を適正化する効果」については、次のように考えています。 大きな集団での学習活動と小グループでの学習活動が展開でき、個に応じたきめ細かな指導と集団の相互作用を生かした指導が行えること。 子どもたちが豊かな人間関係を通して、社会性を身につけていくことができること。 より充実した教員配置を行うことができ、教員同士が互いに切磋琢磨できること。 別紙資料「学校の適正規模について」を参照。</p>	
	<p>統合により、子どもに目が行き届くなどといった小規模校のメリットがなくなるのが心配だ。</p> <p>教員の配置についてはどう考えているのか。</p> <p>1学級あたりの子どもたちの数はどうなるのか。</p> <p>学級の人数が多くなることに不安がある。一人でも手のかかる子どもがいると、担任が見きれないのではないかと。</p>	<p>【統合に伴う教育環境整備】 統合に伴う環境変化等に対応するとともに、きめ細かな指導を行うため、教員の増員及びスクールカウンセラーの派遣を行う。また、職員の配置に当たっては、児童・生徒の心理的な面を配慮するとともに、地域性を理解した教育の推進が図れるよう、統合前の職員をバランスよく配置する。</p>	<p>教員の負担については、次のように考えています。 より充実した教員配置により校務分掌等を分担することができれば、事務等の仕事を減らすことができる。 学年や各教科の教員が複数いれば、互いに情報交換したり相談したりしながら子どもたちの指導を行うことができる。</p>	
	<p>適正配置に係る教育環境整備</p> <p>統合による通学路の距離が心配である。</p>	<p>【通学路の安全確保】 通学路の安全マップを作成する。 セーフティウォッチ事業及び各種安全ボランティアの活用により、児童・生徒の安全対策を図る。 通学路の変更により、特段の安全確保を要する箇所が生じた場合、実情に応じて、学校セーフティウォッチャーや教員に加え、スクールガードアドバイザー等の巡回・見回りを検討する。 通学路状況による施設面での安全対策について、関係機関に要望していく。</p>		
3 地域との関連	<p>街づくり</p> <p>保護者とともに地域を交えた適正配置にしてほしい。</p> <p>跡施設の活用は地域の要望が取り入れられるのか。</p> <p>平成25年度の推計は確かなのか。真砂地区にも空き地があるので心配な面がある。</p>	<p>【統合に伴う教育環境整備】 施設・設備面において、機能的に新設校と同等程度の整備を実施する。 大規模改修を基本としてリニューアルを実施する。 耐用年数等により、大規模改修では対応できない校舎については、改築を検討する。</p>	<p>【統合による跡施設利用の基本的な考え方】 費用対効果を勘案し、有効活用することを原則として検討する。 有効活用の検討に当たっては、地元の要望に配慮するとともに、全市的な行政施策との調整を図りながら別途利用計画を策定する。</p>	<p>地域の状況を見据えながら、協議会において、今後十分に協議していただきます。</p>
	<p>防災関係</p> <p>災害が起こった際の避難所は、学校が減ったらどうなるのか。</p>			
	<p>子どもルーム・特別支援学級</p> <p>子どもルームと適正配置の関係を教えてほしい。</p> <p>既設の特別支援学級はどうなるのか。</p>	<p>【統合に伴う教育環境整備】 子どもルームについては、放課後子ども教室との連携を考慮しつつ、既存施設の活用等利用児童の状況や、当該地域の設置状況等を総合的に勘案し検討することとする。 特別支援学級や適応指導教室が設置されている学校については、統合後も引き続き活用が図れるようにする。</p>	<p>協議会において、今後十分に協議していただきます。</p>	